

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200440		
法人名	医療法人 政裕会 ときつ医院		
事業所名	グループホーム 楽居		
所在地	福岡市西区内浜2丁目6-7		
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果確定日	平成23年2月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、家庭的な雰囲気大切に、自宅に居るような気持ちで生活して頂ける様、入居者1人、そのご家族との関わりに力を入れている。 又、運営母体が医療法人である為、医療との連携は密にとれており、身体の異常時には、速やかな対応が出来、安心して生活を送れる環境となっている。 開設当時より、理念の一つとして「穏やかな死の援助」と挙げているよう、ターミナルケアにも力を入れ、医療のバックアップを受けながら、最後までケアに携わる事を目標としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体となる医療法人「政裕会ときつ医院」が1階に位置し、医療との連携体制が確立されており、開設来、ターミナルケアに取り組んでいる。理念としても「自立した人生の確立・選択の機会と自由・個人の尊重・プライバシーの保護・穏やかな死の援助」と掲げられ、支援の方針が明確に示されており、重度化が進む中で、生活の質という視点を大切に支援に努め、入居者、家族が安心して過ごせるよう、日々の取り組みを行っている。 母体医療機関、デイサービス、グループホーム、高齢者住宅からなる複合施設「ベースキャンプ楽居」としての連携を活かし、地域との交流や職員育成に取り組んでいる。代表者は、外部研修への参加を積極的に促し、今年度はグループホーム全国大会への参加を実現するとともに、福利厚生等を充実させ、働きやすい職場環境の整備に努めている。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念はできてない状況。開設時の基本理念を基に業務にあたっているが、当グループホーム独自の理念をミーティングにて話し合い、内容については検討中である。	法人全体の理念として、「自立した人生の確立・選択の機会と自由・個人の尊重・プライバシーの保護・穏やかな死の援助」を掲げており、開設時よりターミナルケアに取り組んでいる。	歴史ある法人共通理念のもとに、グループホームとしての独自の理念を検討しており、ミーティング等において話し合いが行われている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のソフトボール大会やパトロールに参加している。また、当施設での勉強会の参加にも協力して頂いている。	自治会に加入している。職員の参加が中心となるが、地域行事や月2回の夜間パトロールに参加し、住民との交流、連携を図っている。ホームでの勉強会を機に、AEDの使用方法を消防士の方に説明していただくなど、町内在住の専門的な職種の方に講師を依頼している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や介護は日々の業務の中では実践できているが、広く地域に踏み出し、役に立つところまでは至っていない状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度は地域包括センターや地域の自治会、家族、当施設のスタッフが出席し、利用者の状況報告・当施設での活動報告を行っている。	運営推進会議は、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加により、2ヶ月に1回定期開催されている。自治会長からは地域行事や地域の高齢者に関する情報提供があり、地域包括支援センターからの連絡を含め、この会議が地域の情報交流の場となるよう取り組んでいる。議事録はホーム入り口に開示されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や日常的なサービスについての質疑や相談を行うなど行政との関係づくりに取り組んでいる。	認知症対応型サービス事業開設者研修や、中学・高校の福祉体験、職場体験等を受け入れている。事故報告や入居者の特殊な事情の対応方法等について、情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。スタッフミーティング時スタッフ全員が身体拘束について正しく理解し、日々のケアを行うようにしている。	言葉による抑制についても意識を持ちながら、日々のケアの中での指導に努めている。今年度は研修実施の機会は無かったが、ミーティングやケースカンファレンスにおいて、職員間の共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年は勉強会へ参加する機会がなかった。しかし、事業所内では、色々な意味での虐待が生じないように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一つの講習会へ多数の出席は難しい現状である。そこで、後日、受講した人へ伝達講習をお願いして学習し理解を深め実際に役立てている。尚、12月当施設で勉強会を予定している。	グループホーム協議会の研修会実施に当施設を提供して、権利擁護等に関する勉強会を近々に予定している。現在、権利擁護に関する制度を利用している方もおり、活用に向けた支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時にとどまらず、家族の面会時や普段の関わりの中で、家族が抱えている不安や疑問に耳を傾け理解し、お互いが納得できる様に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会時に、家族の意見や要望に耳を傾ける姿勢や、何でも話してもらえる関係作りを心がけている。又、その意見や要望が早く解決する様に毎月の会議へとり上げている。	家族が参加しやすいよう、運営推進会議のスケジュール調整に配慮している。家族との直接の関わりを大事にし、入居者の想いの代弁や、家族の考えを聴きながら、個々にあった家族への対応に留意されている。苦情等については会議にて検討し、迅速な対応に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見ボックスの設置やスタッフミーティングを行うことで職員の意見をくみ上げ、毎月、経営者も参加して行われる責任者会議の場で提案・提示し、意見が反映されるシステムを作っている。	ミーティングの記録は詳細に残されており、職員各自の意見や提案が大事に取り扱われている。また意見ボックスを設け、職員意見の収集に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	労働時間、給与水準は労基法を順守し、保険年金等の福利厚生、賞与や表彰(永年勤務者など)を設けている。また、代表者は日常の中で職員の生活状況、ストレス、悩み、職員同士の人間関係等の把握に努め、個別に話を聞く機会をなるべく設けている。研究会や学会への参加や定期勉強会やグループホーム内でのイベントなどの実践は職員自ら自主的に行われておりこれらに対しては支援を行っている。さらに、診療所併設の利点を生かした職員に対する細かな健康状態の把握および迅速な医療的なサポートを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、2人の代表者、経営者(男女各1名)の協議によって、理念への共感や適性等を重視し、性別・年齢等の差別が無い様に配慮している。また、資格取得を奨励しており毎年、介護福祉士や介護支援専門員など取得者を輩出している。	法人代表者により、外部研修参加に向けた積極的な働きかけが行われている。研修参加時は有給扱いとし、参加費用等についてもサポートしている。子育て中の職員も多く、個々の状況に配慮された勤務調整が行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員に対して入居者の人権を尊重させる教育の一環として、入居者についてのケースカンファを定期的に行っている。この中で入居者のこれまでの生活歴などを理解することにより入居者をより尊敬、共感できるように心がけさせている。	ケースカンファレンスにおいて、一人ひとりの入居者への理解を深め、尊厳を損なわない対応や、共感できるように、職員間の共有認識を図っている。	行政との連携により、運営推進会議を活用した研修実施や、様々な視点での人権研修に参加する等、継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パートを含む全職員を対象に施設内の定期勉強会を毎月開催している。この中では個々の入居者の介護方法などの検討なども含まれており、職員全体の介護力の向上、均一化に努めている。また、学会や事業所外での講習会や研修に職員が積極的に参加できるよう参加費等の負担免除を行っており、本年も全国学会を含め複数の研究会への参加を行ってきた。また、新規採用者に対しては業務マニュアルを作成し、業務内容を速やかに理解、実践出来るよう心がけている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ参加し、企画、運営等に参画している。また、地域の病院等で行われる勉強会や居宅介護支援事業者連絡会などへの参加も行っており、情報交換や連携を図ることでの向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の状況や要望を知り、家族と離れて暮らす不安な気持ちを思い、笑顔で対応し、寄り添う姿勢を心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	身近な人と離れて暮らすことによる心配、不安、また施設への要望やどんな些細な事でも、いつでも話してもらえるような雰囲気作りや姿勢をとっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員は家族の利用者への思いに寄り添いながら、日々の生活の中での気づきの情報共有に努め、家族と同じような気持ちで利用者支援している事を伝えている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も同じテーブルにつき、楽しい食事または、団欒の時間をとっている。時には一緒にテレビを見たり、簡単なゲームをしたり、歌を唄い楽しい時間を過ごしている。昔の話を聞き、話が盛り上がる時もある。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人への家族の思いを受け止め、面会の際には一緒に過ごしていただき、最近の様子や体調をお伝えしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の決まりはなく、いつでも面会できる。楽しい時間を過ごしていただける様、雰囲気作りをしている。	以前から利用していた馴染みのタクシーを、継続して利用したり、直接行くことができなくなった馴染みの場所へ職員が出掛け、写真を撮り、入居者に見てもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度が高い方が多い中でも、最低一日一回はリビングへ集まっている。一緒に同じ食事をとりながら、会話も楽しみ時間の共有ができる様にしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も不定期ながら顔を合わせる機会がある。その後の暮らしぶりを双方から話したり、一緒に時間を過ごすことに安心感をもてるように接している。時に相談を持ちかけられる時もある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護度が進み自らその思いや希望を伝える事が難しい状況となっている。そこで、本人の仕草や会話の中から又、家族からの情報収集を元に、その把握に努めている。	日々の関わりの中で感覚を鋭く観察し、気付いた事項をホワイトボードに記載している。これまでの暮らしぶりを把握し、意向に沿った支援として、プランターでの野菜栽培を支援する等、出来る限り希望する暮らし方の実現に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	好みの写真 なじみの場所・動物)を飾ったりしている。ご家族や知人の方などから話を聴くなどし、入居されてからも随時情報収集に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の勤務の中で新たな情報や些細な変化を見逃さず、ミーティングの場で情報を共有し日々の生活に役立てている。又、一人一人の生活リズムに合わせた援助を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況・体調の変化にともない、本人・家族・スタッフ間で話し合い、本人に合ったケア・介護計画を作成している。	半年毎に見直される、基本情報シート・生活シートからケースカンファレンスにてモニタリングを行い、介護計画が作成されている。重度化がすすむ中で、QOLについての視点を確保し、よい表情が出るように、また家族と水入らずで過して頂くための支援等、具体的な内容で簡潔に記載されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活において、変化・気付き・工夫などを個人記録に残し、日々の業務の中で、スタッフ間のコミュニケーションを大切に、申し送り等で情報共有を行なう。また、個人記録を介護計画の見直しにも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節によって、家族や友達と一緒に外出したり、遠方にいる家族への情報提供（手紙や写真）を行なうなどしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力をへて、勉強会に救急処置の研修を実施している。また、音楽セラピーという場をかりて、好きな音楽を聴く事で気分転換や癒しの空間をつくるようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医院他に、自由に家族からの依頼があれば、専門医療へ受けられるように支援している。	1階には母体となる医療法人があり、充実した連携や迅速な対応は、本人、家族の安心となっている。歯科・眼科・皮膚科の訪問診察が行なわれ、入居者の負担軽減も配慮されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で、多少でも異変などに気付いたら、早急に看護師などに情報を伝えるようにしている。又、看護師による健康チェックを週一回受け早めに体調の変化に対応できる体制がとれている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医院のほかに専門医院へ入院した際、お見舞いに行ったスタッフから情報を得ている。また、地域医療連携室へうかがい情報交換をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設時よりターミナルケアを実施している。本人・家族・運営者を交えて今後の方針等について話し合い入居が決定している。入居後も、その時々緊急時・終末期等の迎え方について本人・家族と話す機会を設けている。面会時に家族の相談を傾聴し医師と連絡がとれる様にチームワークを大事にしている。	入居の際に、本人や家族に重度化した場合や終末期について説明を行い、承諾を得ている。理念の中に「穏やかな死の援助」と示しており、入居者の方々に寄り添いながら、様々な状況に対応できるよう、日々研鑽を重ねている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い、研修にも参加して、他職員にも実施できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を業者に委託している。地域住民、町内会など協力をお願いしている。その中で教わったことや、その場で実践し確認しながら、取り組んでいる。	避難訓練時には、消防の方より避難経路や避難方法について指導を受けている。運営推進会議でも自治会の支援を要請している。また他施設での避難訓練の様子をDVDを見ながら研修を行っている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人や家族から得た情報を理解したうえで、日々の会話や介助に人格を傷つけたり、プライバシーを侵すような関わりにならない様配慮している。介助内容によっては決められた数字を利用し暗号としている。	家族にも聴きながら、一番好まれる呼び名を用いる等、尊厳を大切に声かけや対応に努めている。排泄に関する会話は数値化して、周りの人に判らない様配慮している。個人情報についても慎重な取り扱いに努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を言葉で伝える事が難しい状態である。その時の状況や表情・仕草・声のトーン等から気持ちをくみ取り、簡単な言葉や返事で意志の疎通が図れ自己決定ができるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人や家族よりどのように過ごされていたか聴き取り、スタッフ間で情報(趣味・仕事・習い事・嗜好品等)を共有し、その人らしい暮らしができるように本人のペースに合わせた生活を支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容が月2回利用できる。本人、家族の希望を伺い、また、体調をみながら無理のない計画をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は入居者と一緒に準備をしていた。現在はADLの低下により、それが難しい状況となり作ってもらっている。そこで、食事にかかわる仕事(エプロンたたみ、食器拭き、テーブル拭き)を入居者と一緒に行うようにしている。	主菜は1階の厨房にて、個々に合わせた形状に調理されている。炊飯や汁物はホームでの調理となり、調理の音やにおいが食事を楽しむ雰囲気を作っている。ベッドでの食事となる方にも、職員が自分の食事を持参し、介助しながら自分も食事されていた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	歯の状態、嚥下力を考え食事の形態を変えている。普通食に、粥食、キザミ食、ミキサー食が加わる。水分が十分摂取できるように汁やお茶にトロミを付けて提供したり、必要時は水分摂取表記入し統一している。状況を見て、おはし、スプーンを使って食事をして頂いている。		

福岡県 グループホーム 楽居

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に見合うケアを行い、義歯の不具合や口腔内を観察している。歯科衛生士より週一回の口腔ケアを受けている。職員もケアの指導を受け実践している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は布パンツをなるべくつけてもらっている。排泄パターンを把握して適時に声かけを行いトイレに誘っている。	排泄パターンを把握して、トイレ誘導やオムツ交換が行われている。起床時はホットタオルで清拭を行い、常に清潔を保ち、排泄後の不快感を取り除くことで、排泄の自立につなげている。個別に応じたパットを検討する等、快適に安心して過ごせるよう配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に心がけ、食材などにも繊維質のあるものを摂って頂く。状況に応じてホットバックで腹部を温めたり腹部マッサージを行う。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めずに体調や本人の希望により、一人一人に合った時間帯に入浴していただいている。	リフトを使用し、浴槽に入る心地良さを大切にしている。基本的な入浴日の設定はあるが、バイタルサインの変動や排泄の状況等に合わせて、臨機応援に対応されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の興味のあるテレビや音楽をスタッフと一緒に鑑賞して、コミュニケーションを計っている。夜間の睡眠状況や体力を考慮し、ゆっくり休んでいただく為に、好みの音楽を流したり、照明を調節したりしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬事情報書を参考にし、理解し、薬の変更があった際には申し送りを行っている。服薬時にはスタッフ同士でダブルチェックを行い誤薬を防止に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩に出かけて花を見たり、役割はないが、ミニ家庭菜園をしている。又、家族も参加しミニ運動会を計画し、簡単なゲームで楽しい時間を過ごした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞けないレベルであるが、体調や天候をみて外出している。又、家族の希望で家へ帰られたり、お誕生会を自宅でされている。	季節や天候のよい時、車いすで戸外の散歩をされたり、敷地内での花見や、2階のデイサービスの催し時に参加することもある。重度化がすすむ中で、戸外への日常的な散歩は難しい状況にあるが、1日に1回は必ず離床して、全員がテーブルに集合し、心身のリフレッシュにつなげている。	家族との連携も図りながら、ホーム内や複合施設内のスペースを活用し、日光浴や外気浴、交流の場面等を共有していくことも検討して下さい。
52		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行くが、支払い等は難しい。家族よりお金を預かり、本人に必要な物を購入し、小遣い帳へ記入している。時々、家族より収支チェックをして頂いている。		
53		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛けたりできなくなったが、手紙では名前だけでも書いてもらっている。		
54	(22)	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは季節に合った飾りつけ、台所では食事準備の様子などを感じてもらっている。不快な臭いがしない様に消臭スプレーを使用したり、こまめに換気を行っている。	市街地に位置しているが、ホームの中に入ると昔ながらの振り子時計や家庭的な食器棚があり、懐かしさや温かみのある、家庭的なリビングとなっている。季節や行事にあわせた飾り付けが、さりげなく行われている。	
55		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員と一緒にくつろげる様にリビングにはソファを置いている。また、畳の部屋もあり、ゴロリと体を休める事ができる。		
56	(23)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には使い慣れた家具、家族の写真を飾って、家にいるように過ごして頂くよう努めている。	居室は二人部屋が中心となっているが、カーテン等でプライバシーが保てるよう工夫されている。いつも見える所に家族や夫婦での写真、愛犬の写真が貼られたり、テレビやラジオを操作できる近さに置き、日々の生活を楽しむことが出来るよう配慮されている。	
57		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は物音や外傷予防の目的で絨毯を敷いている。床は段差をなくしたバリアフリーとし転倒予防にもなっている。		